

研究・調査報告書

報告書番号	担当
29	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名（原題／訳） Alcohol, smoking, and dietary status and susceptibility to malignant lymphoma in Japan: results of a hospital-based case-control study at Aichi Cancer Center. 日本におけるアルコール・喫煙・食餌と悪性リンパ腫：愛知がんセンターにおける施設ベース症例対照研究の知見	
執筆者 Matsuo K, Hamajima N, Hirose K, Inoue M, Takezaki T, Kuroishi T, Tajima K.	
掲載誌（番号又は発行年月日） Jpn J Cancer Res. 2001 Oct;92(10):1011-7.	
キーワード アルコール、悪性リンパ腫、生活習慣、症例対照研究	
要旨 <p>目的：悪性リンパ腫のリスクに関して、様々な環境因子との関連性について研究がなされてきているが、そのほとんどが欧米での研究である。世界で食餌因子との関連で研究した報告はわずか11例しかなく、日本人にとって有用な情報はいまだ報告されていない。また、アルコールと喫煙による影響については未だエビデンスがない。そこで、愛知がんセンター内で患者対照研究を実施し、生活習慣因子と悪性リンパ腫感受性との相関について検討を行った。</p> <p>方法：1988年から1997年までの初診患者に対して生活習慣因子についての自記式質問紙調査を行った。質問紙は全初診患者の91.3%にあたる67,854名に配布し、66,885名（応答率98.6%）から回収した。そのうち非がん患者は55,904名で、全てを対照群とした。残りのがん患者10,981名のうち、組織学的検査にて悪性リンパ腫が確診された患者333名をケースとした。解析は多変量ロジスティック回帰分析を行った。</p> <p>結果：常習飲酒は悪性リンパ腫のリスク低下に関連性が認められた。一方、喫煙に関してはリスクに差が認められなかった。他にも、野菜・豚肉・魚の摂取と部分的な相関を認めたが、有意な相関であるかについては、遺伝の影響と共に、今後さらなる検討が必要である。</p>	